

令和8年度全国学力・学習状況調査における萩市の結果について（概要）

萩市教育委員会学校教育課

1 調査の概要

（1）調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（2）実施期日

- 国語科 算数・数学科 令和8年4月23日（木）
- 英語科「読むこと」「書くこと」 令和8年4月20日（月）～同月23日（木）までの間で各学校の希望を踏まえて文部科学省が指定する日
- 「聞くこと」
- 「話すこと」 令和8年4月28日（火）～5月29日（金）までの間で各学校の希望を踏まえて文部科学省が指定する日

（3）調査を実施した学校数・児童生徒数

学年	学校数	児童生徒数
小学校第6学年	16校	189名
中学校第3学年	13校	242名

- ※ 弥富小、鈴野川小、相島小中は休校中。
- ※ 見島小は対象児童なし

（4）調査の内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

- ア 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- イ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

② 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

- ア 児童生徒に対する調査（児童生徒質問調査）
- イ 学校に対する調査（学校質問調査）

* 調査問題の詳細は、国立教育政策研究所の「令和8年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について」（URL <https://www.nier.go.jp/26chousa/26chousa.html>）で閲覧することができます。

2 教科に関する結果

(1) 全体の結果

○【県平均に対して】小学校は、国語は県平均と同程度、算数は上回った。中学校は、国語・数学・英語ともに県平均を下回った。

【全国平均に対して】小学校は、国語・算数ともに全国平均を上回った。中学校は、国語・数学・英語ともに全国平均を下回った。

(2) 教科ごとの結果

小学校				中学校			
区分	平均正答率 (%)			区分	平均正答率 (%)		
	萩市	山口県	全国		萩市	山口県	全国
国語	62	62	60.9	国語	62	64	63.9
算数	58	57	56.4	数学	53	57	57.0
				英語	3.4/7	3.6/7	3.7/7
					*488	*495	*499

* 中学校英語はCBT(Computer Based Test)で実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。IRTとは、単に「何問正解したか」だけを見るのではなく、「どの問題にどう答えたか」という情報をもとに、受験者の力と問題の難しさを同時に分析する方法である。資格試験などさまざまな場面で使われており、より正確に力を測ることができる。

(3) 各教科に見られる成果と課題

(○：相当数の児童生徒ができている点 △：課題が見られる点)

※ () 内は、萩市内児童生徒の正答率 ※ゴシックは県との平均正答率の差が大きい問題

【小学校国語】

○相手に伝わるように、理由や事例などと挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること (81.0%)

○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと (85.2%)

○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること (76.2%)

△引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること (41.3%)

△話や文章の種類とその特徴について理解すること (68.8%)

【話や文章の種類とその特徴について理解すること】に関する問題 ※県との平均正答率の差 -8.4%

3

林さんの学級では、自分の心に残った文章について考えたことをまとめることにしました。林さんは、「苦手」と「嫌い」という題名の文章を選んで読んでいます。次は、林さんが読んだ「文章」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

一 林さんは、「文章」を読んで、文章の書き方に特徴があることに気づきました。「文章」の特徴として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 疑問や調べたことを、問いと答えの段落に分けて書いている。

2 筆者の生涯を、生まれたときから時間的な順序で書いている。

3 登場人物同士の関係を、場面の移り変わりと結び付けて書いている。

4 筆者の経験や心の動きを、筆者なりのものの見方や感じ方で書いている。

【解答】

4

【小学校算数】

○小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくること (95.2%)

○単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えること (80.2%)

○示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めること (78.1%)

△二次元の表から、条件に合う数を読み取ること (21.4%)

△整数と小数の減法の計算をすること (51.9%)

【整数と小数の減法の計算をすること】に関する問題

※県との平均正答率の差 **-6.8%**

3

たいがさんとひまりさんは、1 から 9 までの数字が書かれた 9 枚のカードを使って遊びます。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

カードを裏返しにして、1 人 3 枚ずつカードを引いて数をつくります。

(2) たいがさんたちは、【ルール2】で遊ぶことにしました。

【ルール2】

① 引いたカード 3 枚すべてを、 に当てはめて小数をつくります。

.

② 5 に近い数をつくった方が、勝ちです。

ひまりさんは、3 6 7 を引きました。



どちらの方が 5 に近いのかな。

6 . 3 7

3 . 7 6

6.37 と 3.76 のどちらの方が 5 に近いかを調べるために、下の㊦と㊧のひき算をします。

それぞれの計算の答えを書きましょう。

㊦ $6.37 - 5$

㊧ $5 - 3.76$

【解答】

㊦ 1.37

㊧ 1.24

【中学校国語】

- 助動詞の働きについて理解すること (80.6%)
- 単語の活用について理解すること (85.5%)
- 表現の効果を考えて描写すること (90.1%)

△語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えること (31.0%)

△必要に応じて質問しながら話の内容を捉えること (66.1%)

【必要に応じて質問しながら話の内容を捉えること】に関する問題 ※県との平均正答率の差 -5.4%

2

合唱コンカールの委員である山下さん、石川さん、大森さんは、学級の目標を達成するための課題についてアンケートをとり、その解決のために、出された意見をタブレット端末上で共有しながら話し合っています。次の「アンケートの結果を示した画面」、【話し合いの一部】、【話し合いを受けて整理した画面】を読んで、あとの問いに答えなさい。

「アンケートの結果を示した画面」

【話し合いの一部】

〈目標を達成するための課題〉

- ・歌声に強弱がつけられていない。
- ・高い音の部分がうまく歌えない。
- ・歌い出しのタイミングがそろわない。
- ・練習を始めるまでに時間がかかる。
- ・練習後の振り返りのときに、意見や感想が出されない。

山下 私たちの学級の目標は、「美しい歌声を響かせよう」です。アンケートで〈目標を達成するための課題〉として挙げられたものを、タブレット端末で共有したので、画面を見てください。①

を課題として考えているかを整理した上で、どうしていけばよいかを考えませんか。

石川 そうですね。〈目標を達成するための課題〉を見ると、歌の表現の仕方に関わるものと、練習への取り組み方に関わるものの二つに分けられるのではないのでしょうか。

山下 私もそう思います。②

例えば、「歌声に強弱がつけられていない」や「高い音の部分がうまく歌えない」は、歌の表現の仕方になりますよね。

石川 「歌い出しのタイミングがそろわない」もそれに入ります。

大森 そうすると、それ以外の「練習を始めるまでに時間がかかる」、「練習後の振り返りのときに、意見や感想が出されない」は、練習への取り組み方に関わるものになりますね。

山下 まずは、〈目標を達成するための課題〉を二つに分けられましたね。

二 【話し合いの一部】の——線部②「例えば、「歌声に強弱がつけられていない」や「高い音の部分がうまく歌えない」は、歌の表現の仕方になりますよね。」という発言について説明したものと最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 石川さんの発言の中で間違っている部分を指摘している。
- 2 石川さんの考えと自分の考えとの相違点を明らかにしている。
- 3 石川さんの考えに対する自分の理解が合っているかを確かめている。
- 4 石川さんの発言に反対する意見を具体的な例を挙げながら述べている。

【解答】

3



【中学校数学】

○具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すこと (81.7%)

○同類項の意味を理解すること (71.7%)

○問題場面における考察の対象を明確に捉えること (70.4%)

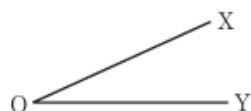
△データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明すること (31.3%)

△具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えること (52.5%)

【具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えること】に関する問題

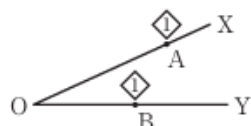
※県との平均正答率の差 -5.4%

- 8 下の手順で、鋭角である $\angle XOY$ の2倍の大きさの角が作図できます。

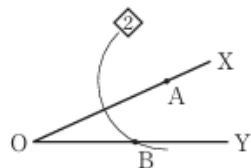


手順

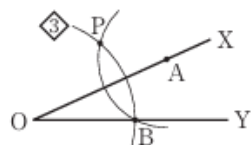
- ① 辺OX上に適当な点A、辺OY上に適当な点Bをとる。



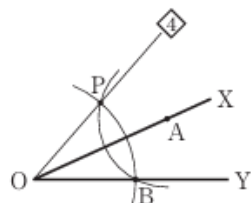
- ② 点Aを中心として半径ABの円をかく。



- ③ 点Oを中心として半径OBの円をかき、②の円との交点をPとする。



- ④ 直線OPをひく。



上の手順で作図した $\angle POB$ は、 $\angle XOY$ の2倍の大きさになります。

- (1) 手順の④の図において、 $\angle AOB$ の大きさが a° のとき、 $\angle POB$ の大きさを a を用いて表しなさい。

【解答】 $2a$

【中学校英語】

○音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用すること（70.6%）

○音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用すること（54.5%）

△社会的な話題について、長い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くこと（22.5%）

△音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用すること（50.2%）

【音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用すること】に関する問題 ※県との平均正答率の差 **-9.8%**

11

留学生のメイ(Mei)に昨日の出来事について質問し、分かったことを下の【表】にまとめました。【表】を見て、例を参考にしながら、①メイが行った場所、②メイがしたことを、それぞれ英文1文で書きなさい。

【表】

例	メイが起きた時刻	7時(seven)
①	メイが行った場所	公園(the park)
②	メイがしたこと	テニス(tennis)

<解答欄> ※半角で入力してください

例 Mei got up at seven.

①

【解答】

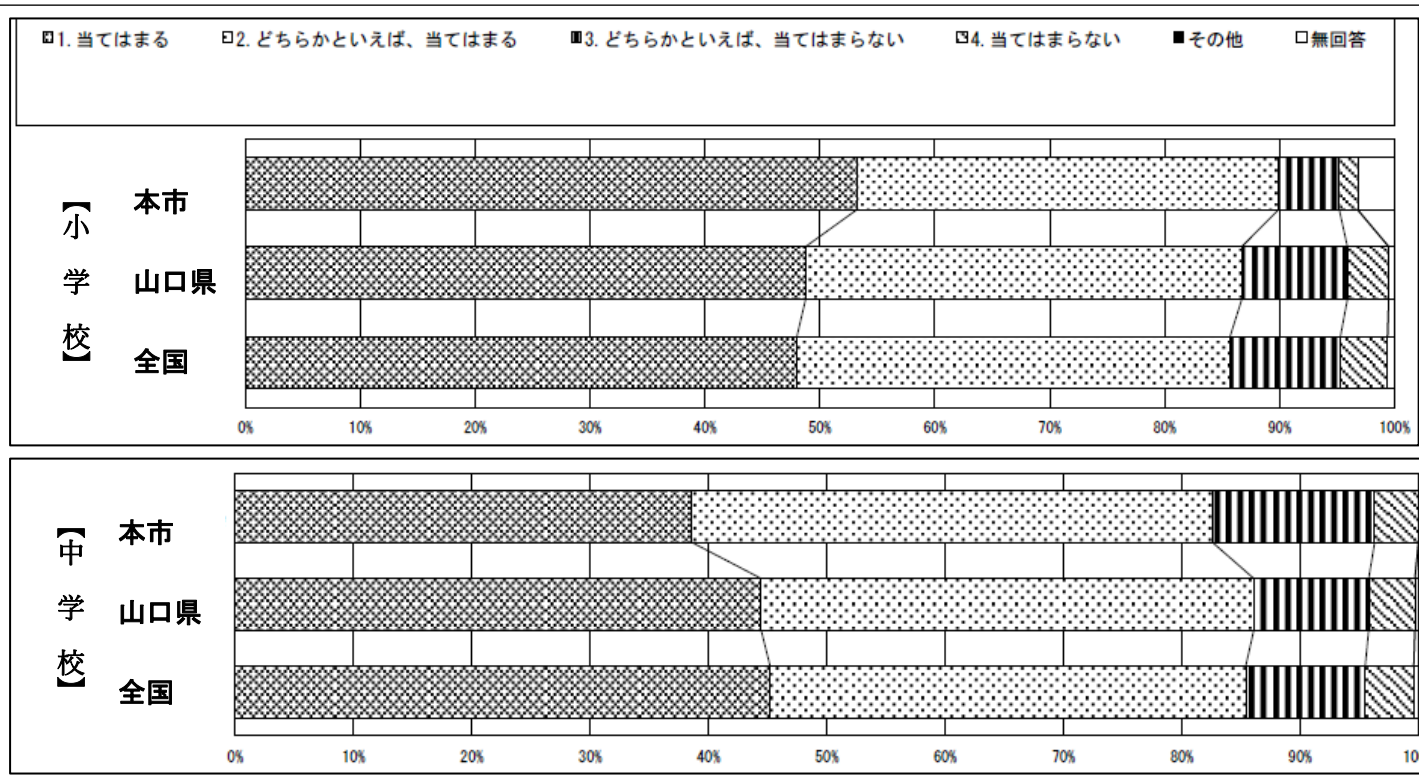
Mei went to the park.

3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査の結果

(1) 学校生活や教科に関する子どもたちの意識

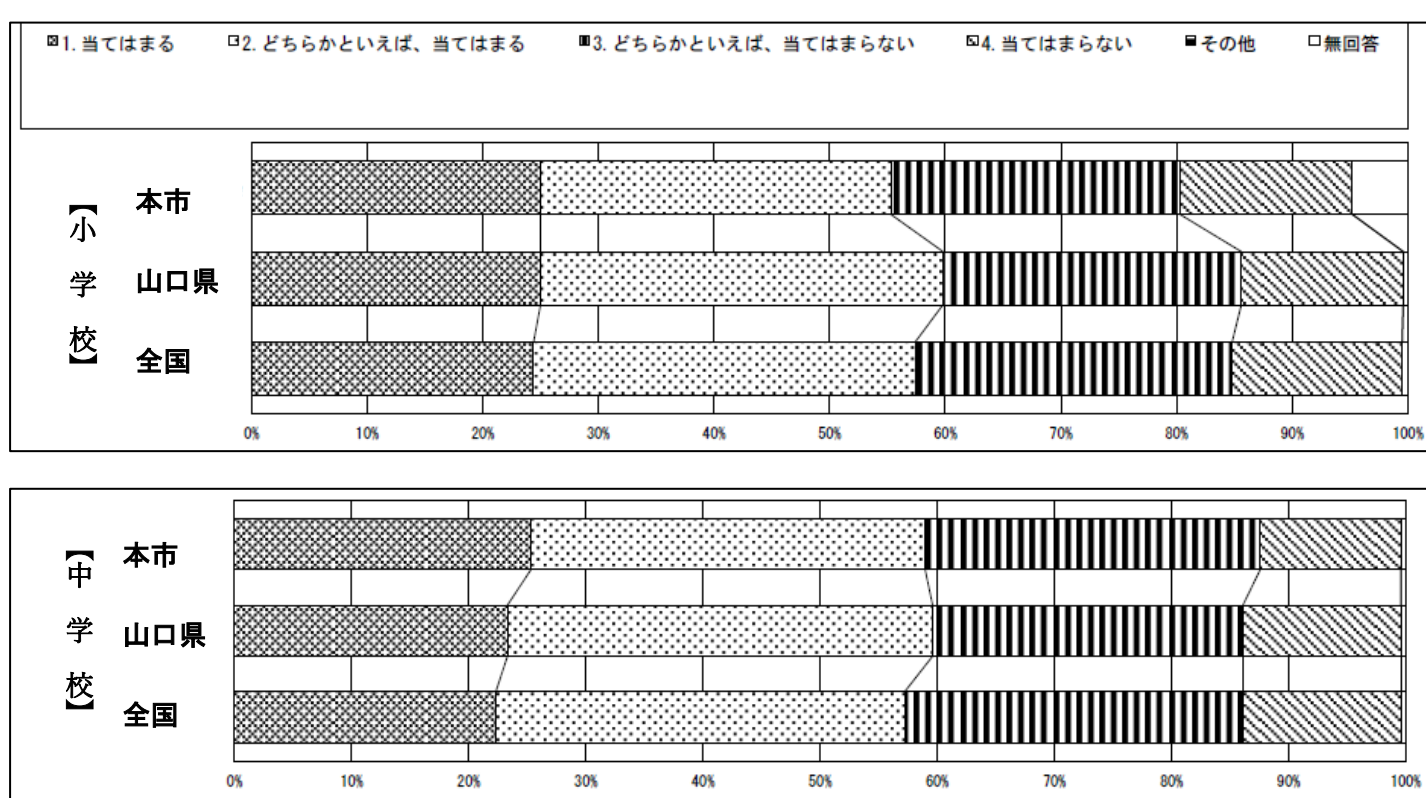
質問：学校に行くのは楽しいと思いますか。

「当てはまる」と答えた児童の割合は、県や国を上回っている。一方、生徒の割合は、県や国を下回っている。



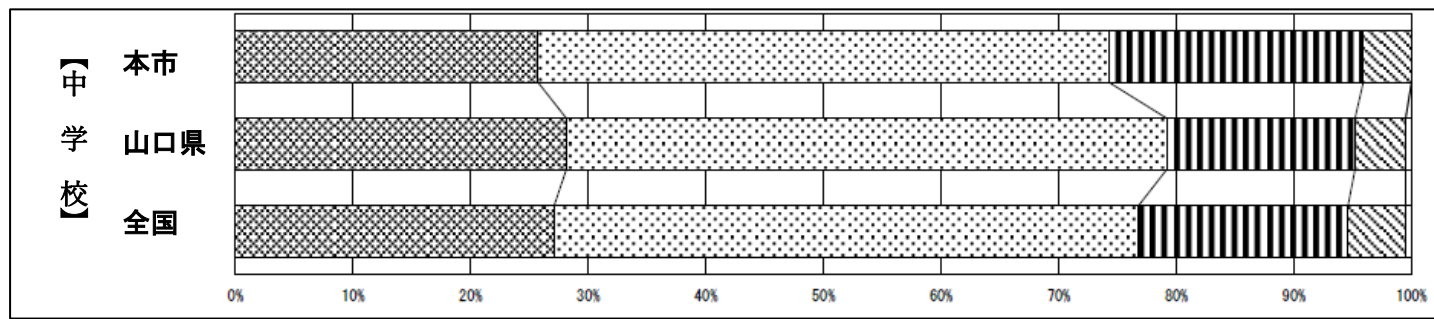
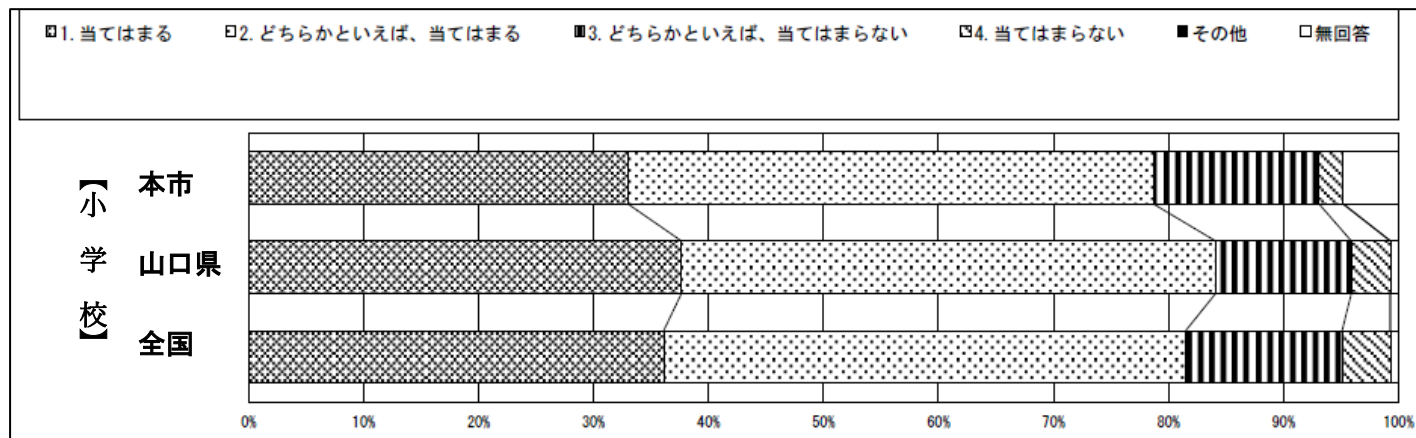
質問：国語の勉強は好きですか。

「当てはまる」と答えた児童の割合は、県や国と同等である。一方、生徒の割合は、県や国を上回っている。



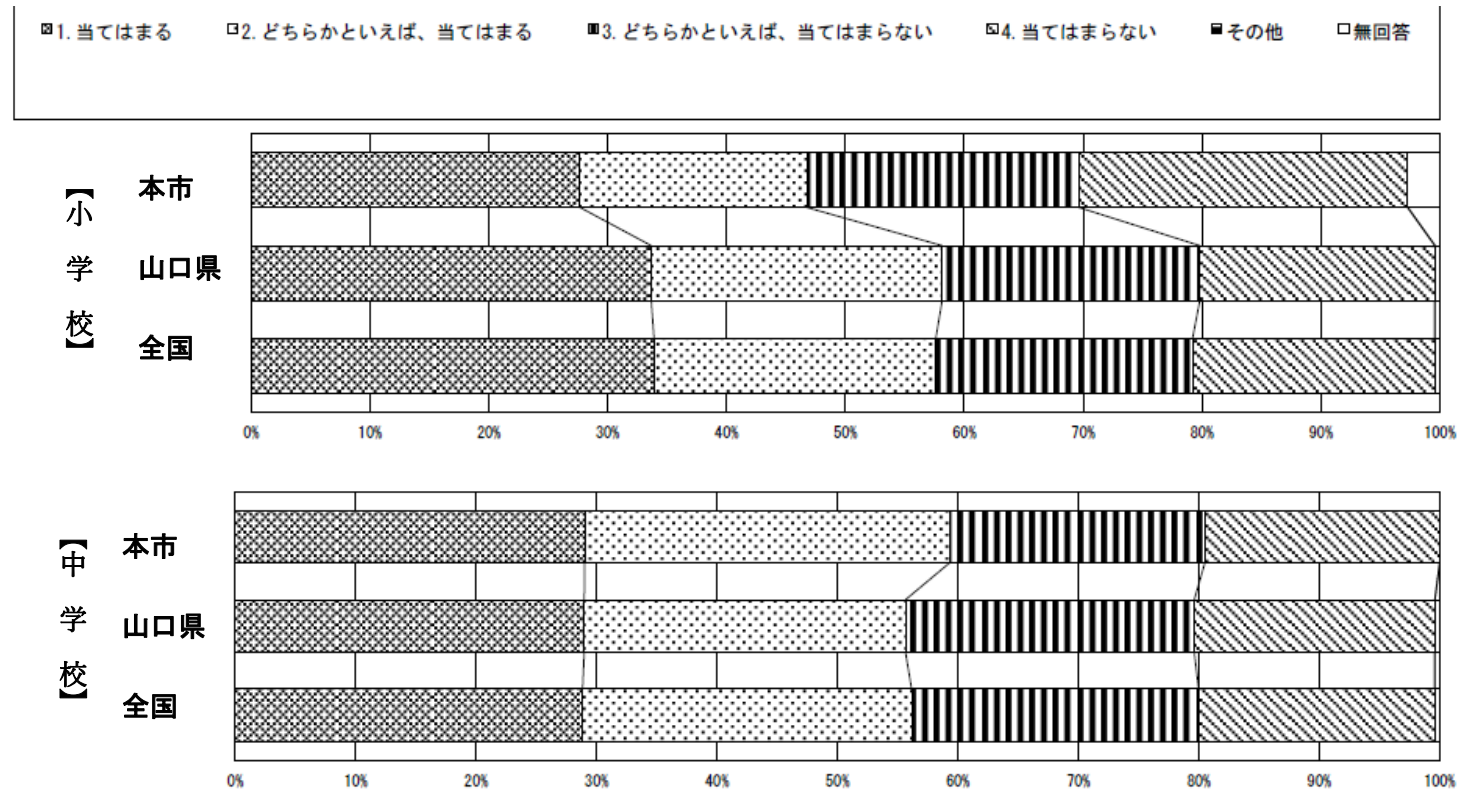
質問：国語の授業はよく分かりますか。

「当てはまる」と答えた児童・生徒の割合は、ともに県や国を下回っている。



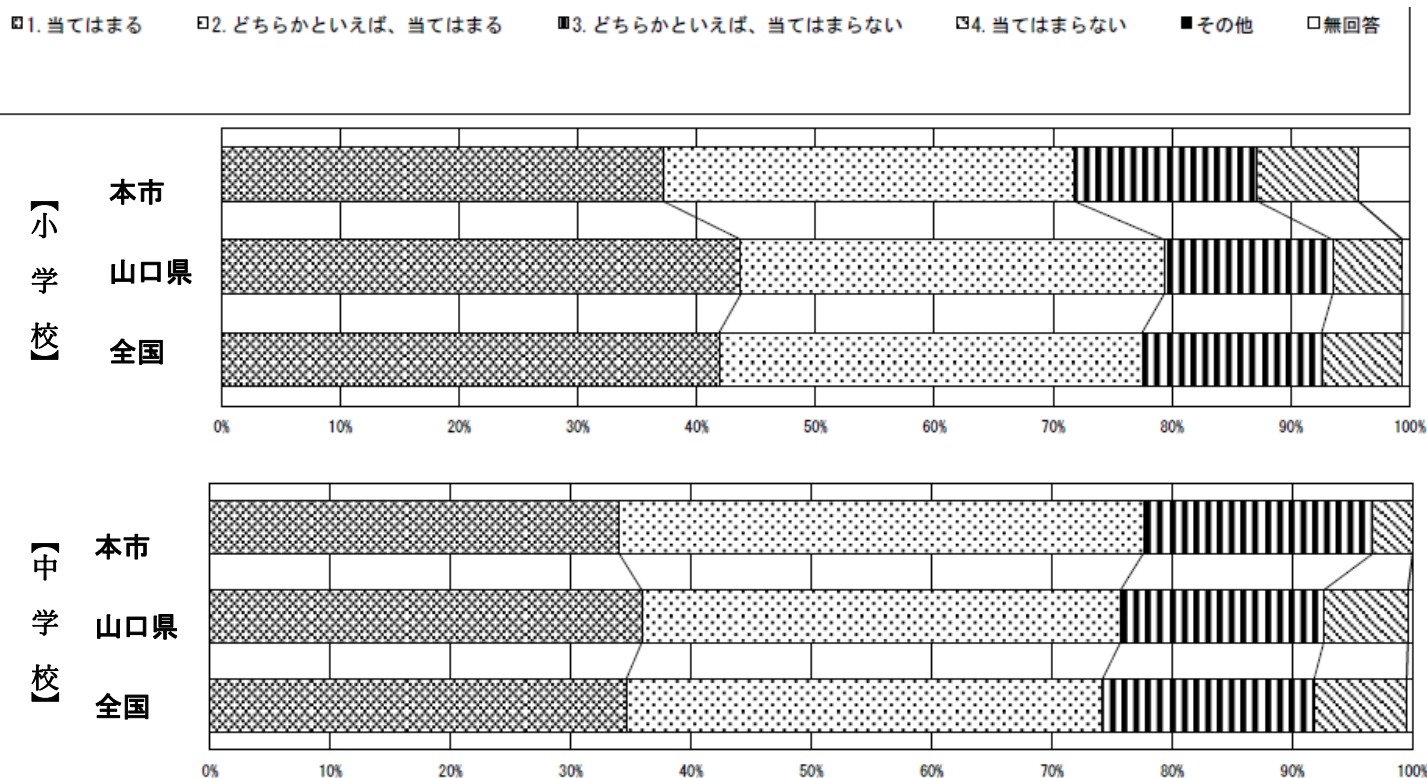
質問：算数・数学の勉強は好きですか

「当てはまる」と答えた児童の割合は、県や国を下回っている。一方、生徒の割合は、県や国と同等である。



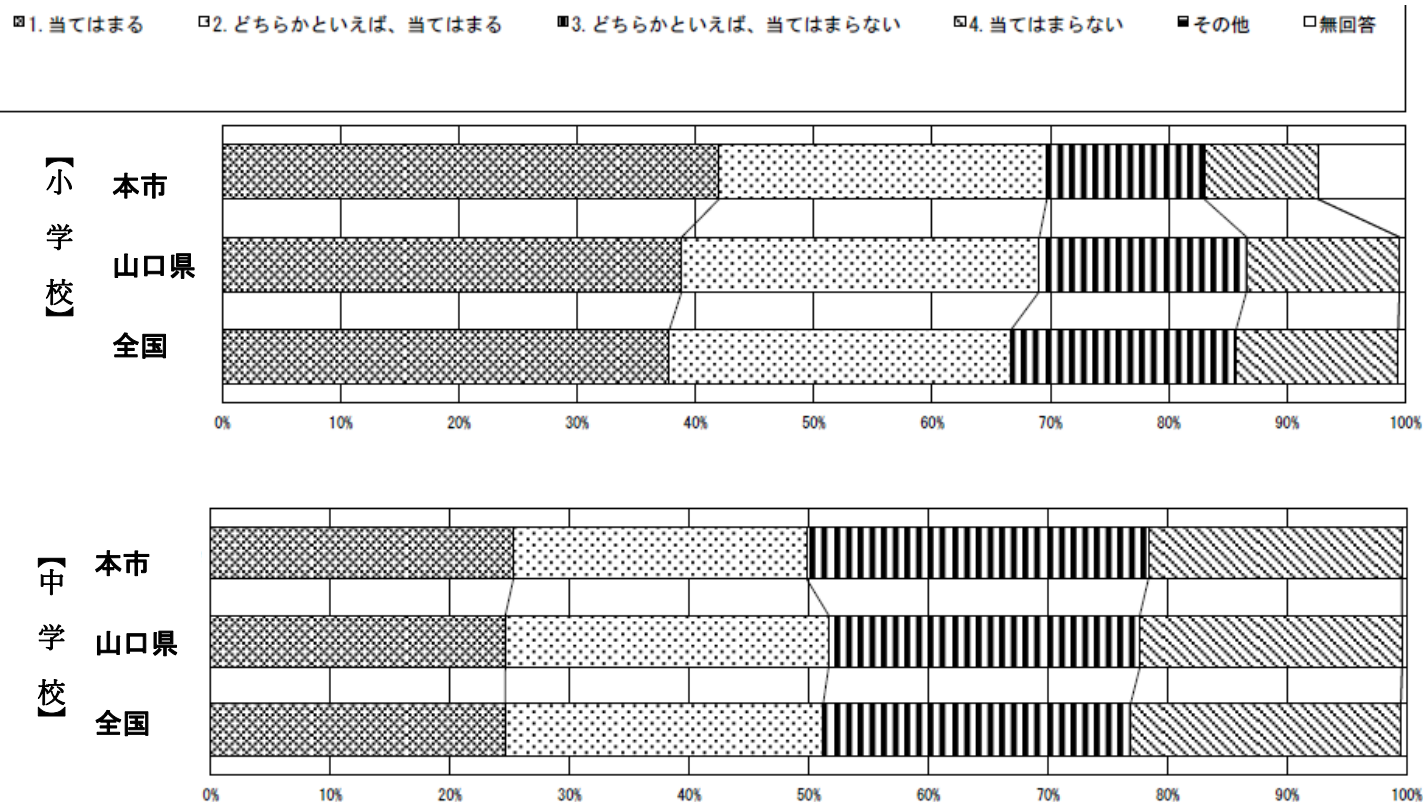
質問：算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。

「当てはまる」と答えた児童の割合は、県や国を下回っている。一方、生徒の割合は、県を下回り、国と同等である。



質問：英語の勉強は好きですか。

「当てはまる」と答えた児童の割合は、県や国を上回っている。一方、生徒の割合は、県や国と同等である。

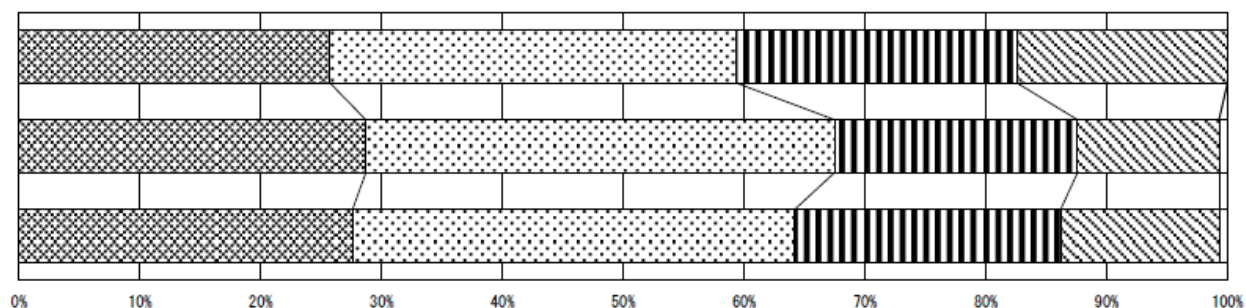


質問：英語の授業の内容はよく分かりますか。

「当てはまる」と答えた生徒の割合は、ともに県や国を下回っている。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 □無回答

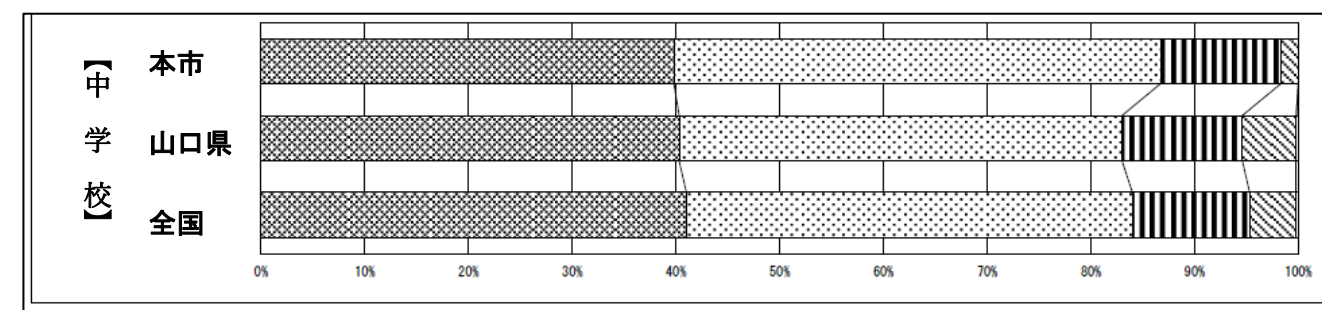
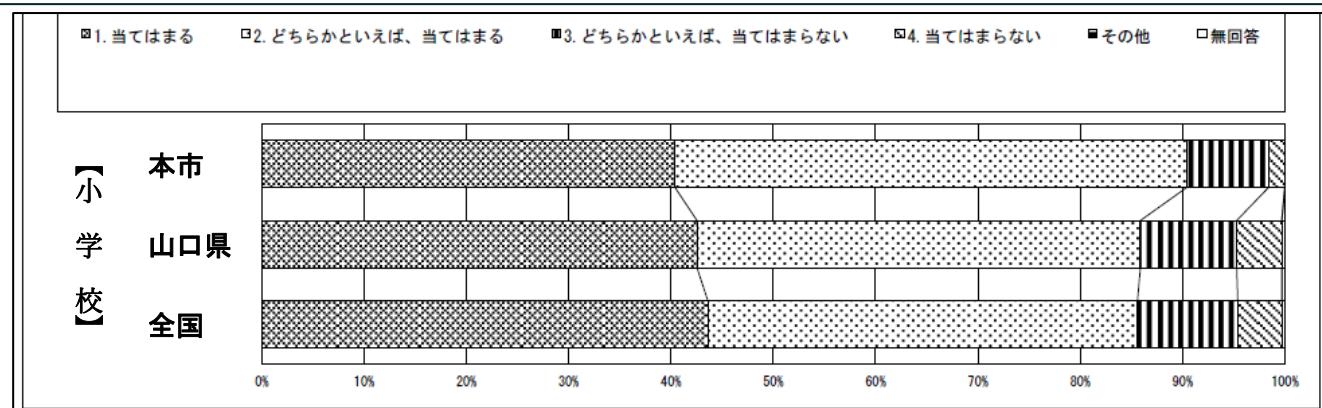
【中
学
校】
本市
山口県
全国



(2) 志教育に関する子どもたちの意識

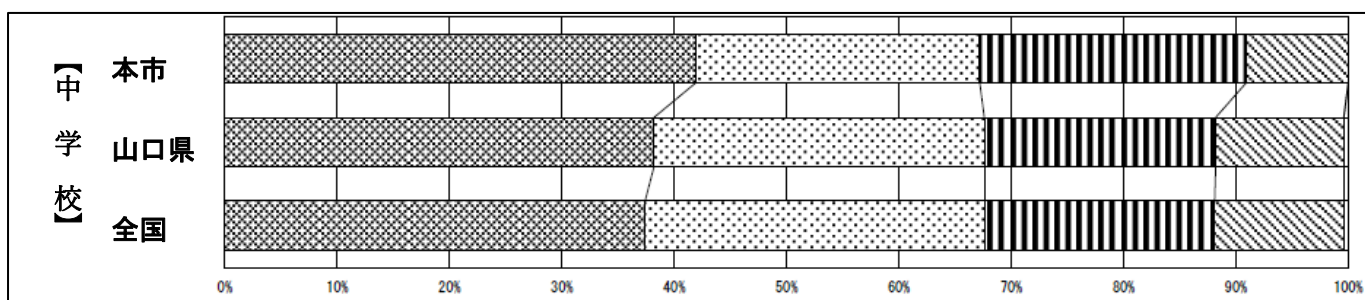
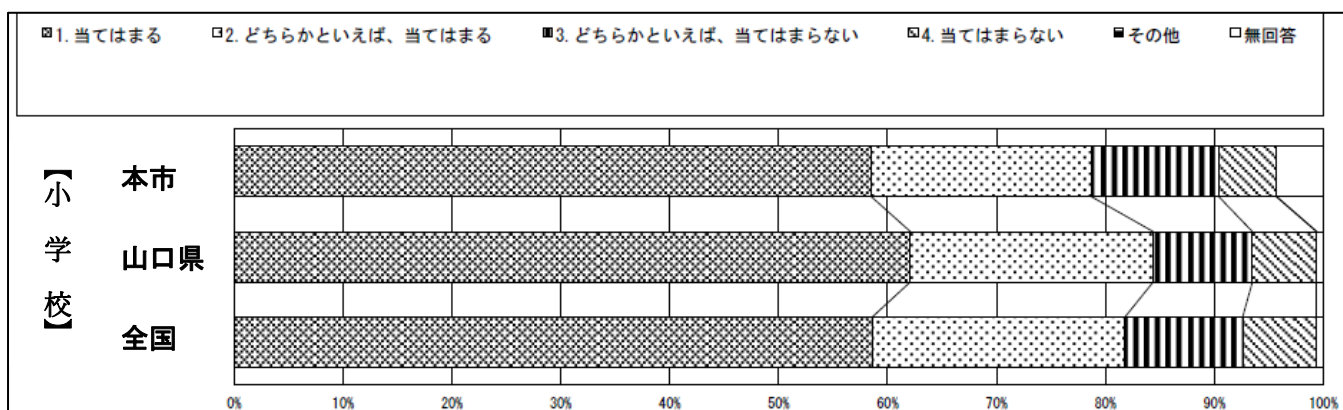
質問：自分にはよいところがあると思いますか。

「当てはまる」と答えた児童の割合は、県や国を下回っている。同様に、生徒の割合は、県や国をやや下回っている。



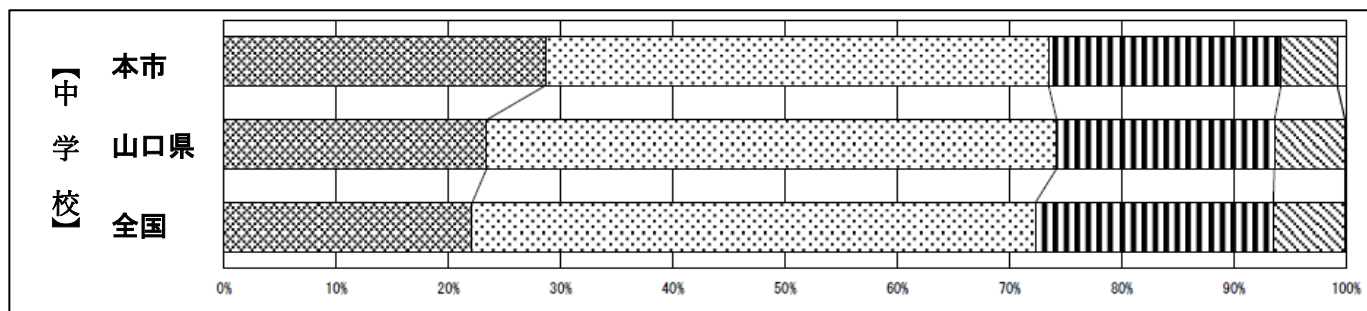
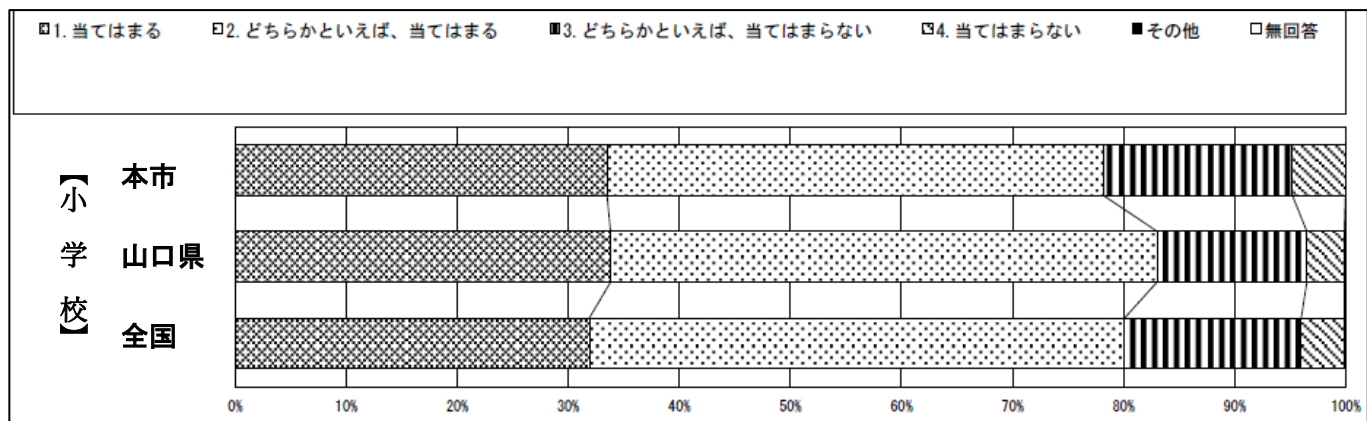
質問：将来の夢や目標をもっていますか。

「当てはまる」と答えた児童の割合は、県を下回り、国と同等である。一方、生徒の割合は、県や国を上回っている。



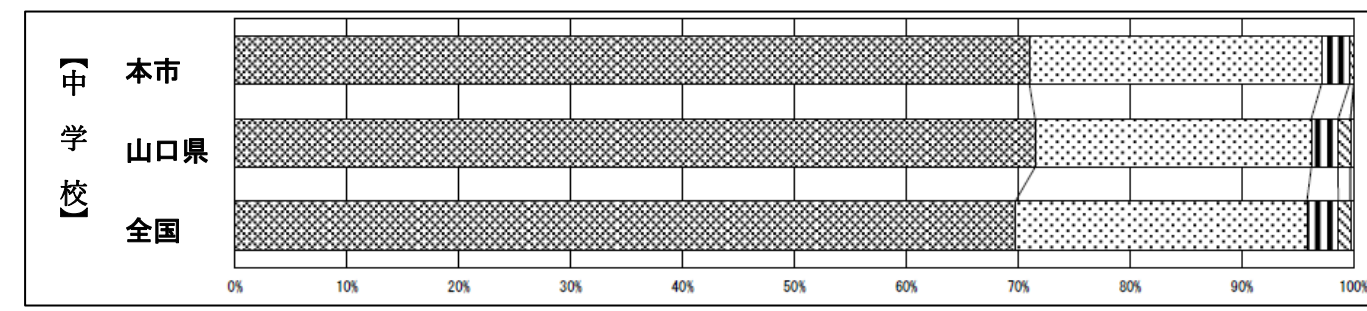
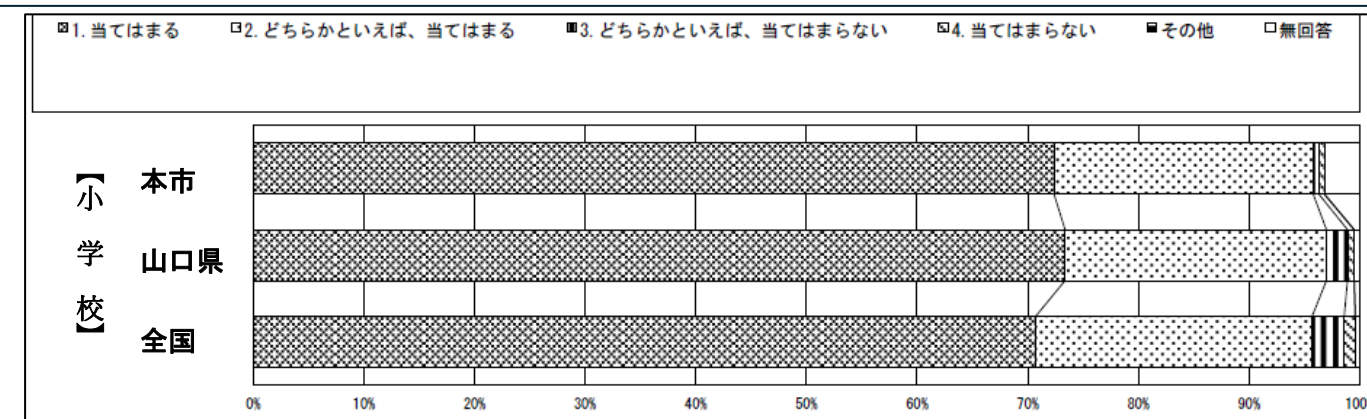
質問：地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

「当てはまる」と答えた児童の割合は県と同等、国を上回っている。同様に、生徒の割合は県や国を上回っている。



質問：人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

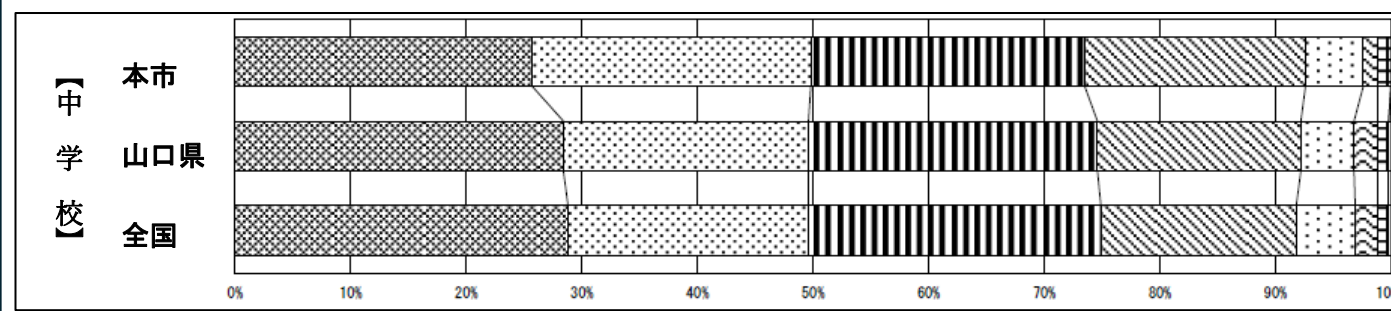
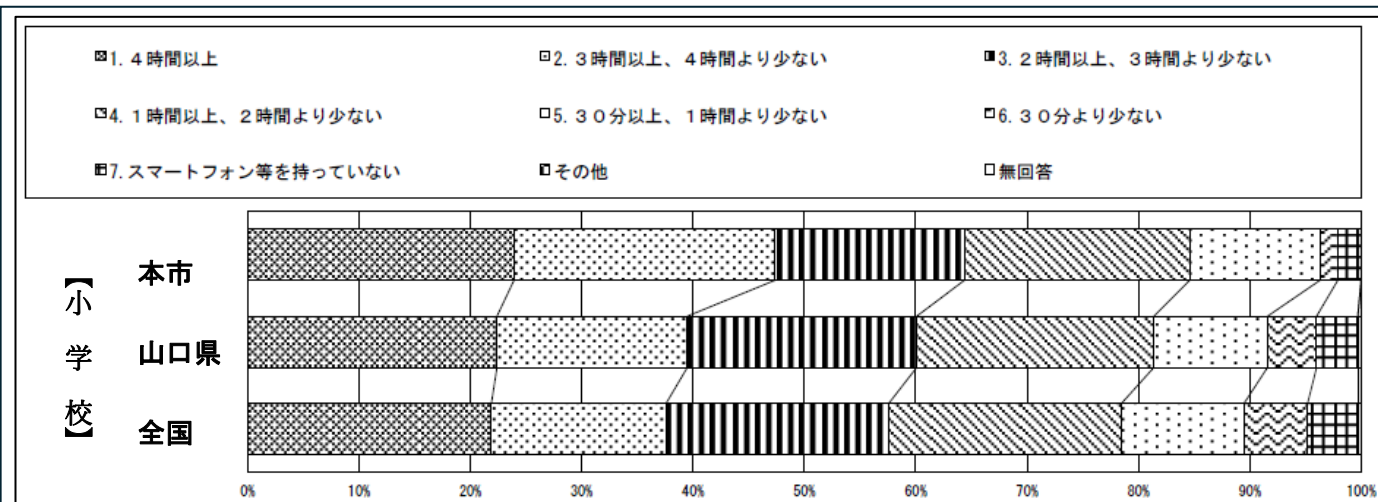
「当てはまる」と答えた児童の割合は県と同等、国より上回っている。一方、生徒の割合は県と同等、国をやや上回っている。



(3) 生活習慣に関する子どもたちの意識

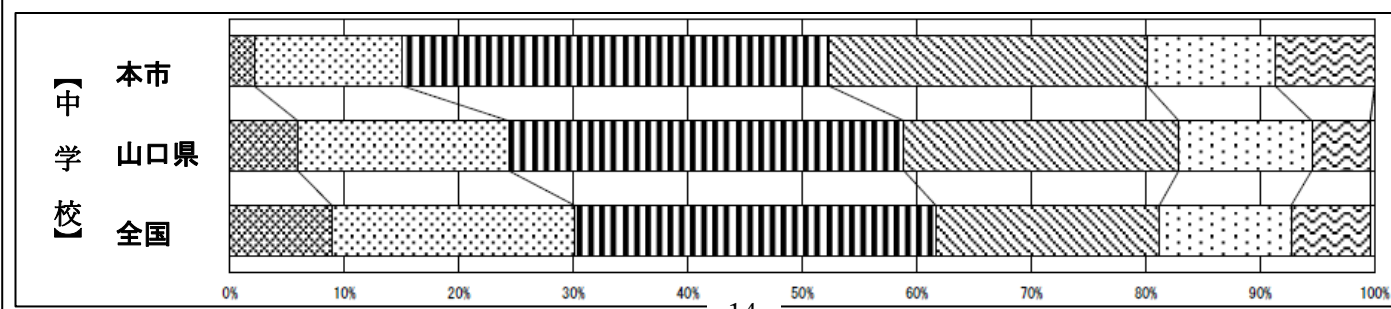
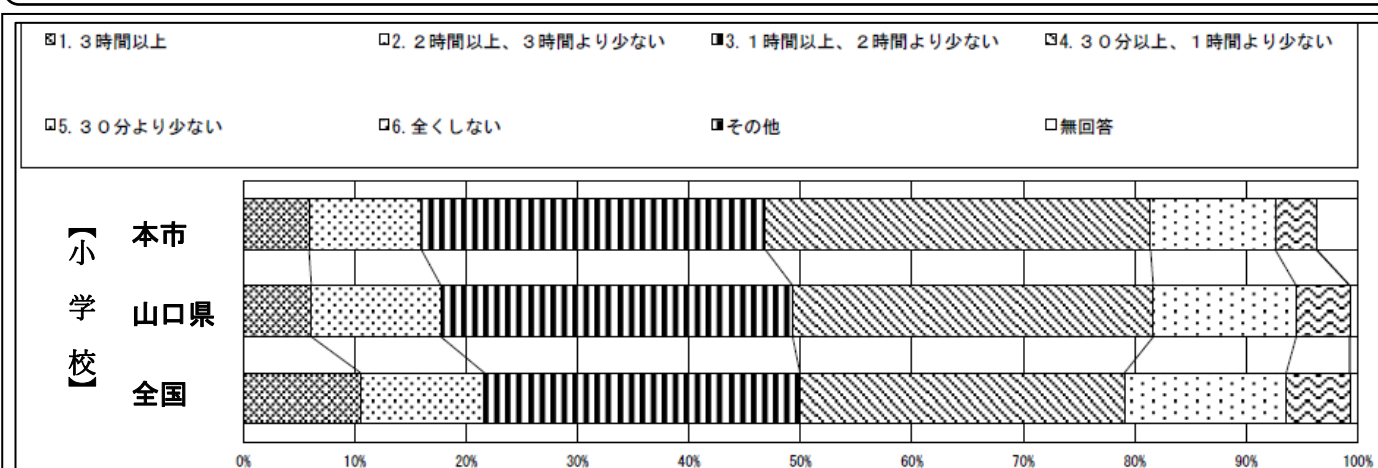
質問：普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などをしますか。

「1時間以上」と答えた児童・生徒の割合は、ともに県や国を上回っている。



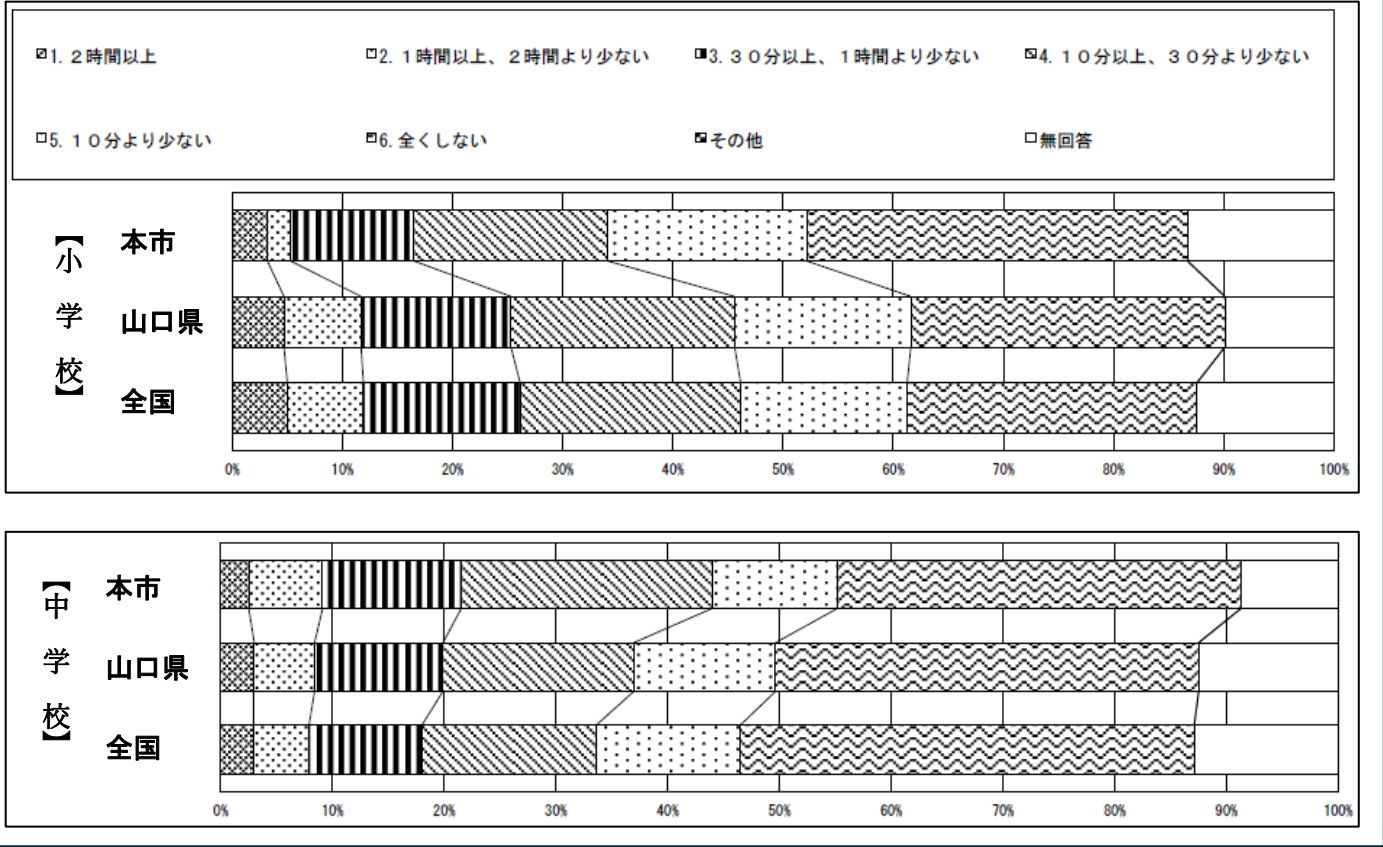
質問：学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）一日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

「1時間以上」と答えた児童・生徒の割合は、ともに県や国を下回っている。



質問：学校の授業時間以外に、普段、一日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

「30分以上」と答えた児童の割合は、県や国を下回っている。一方、生徒の割合は、県や国を上回っている。



4 調査結果の分析と今後の取組

(1) 「わからない」をそのままにしないしくみづくり

全校体制で児童生徒の学びを丁寧に見取るしくみづくり

- 学級や学年、教科、役職等の枠を超え、全教職員が研修職員会議等で、授業改善・学習状況の分析・支援策の検討を定期的に行い、多角的な視点を活かした指導体制を強化する。
- 各校の学力向上の取組を可視化し、年2回のPDCAサイクルの中で、学習状況の評価→課題→分析→改善策の実施→再評価を行い、児童生徒一人ひとりの学びの変化を丁寧に見取るしくみを整え、個々の成長を確実に把握する。

【指標とする質問】

- ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。

R8：〈小〉当てはまる 52.7% (R7:56.1%) ➡ 目標：「当てはまる」を増加させる

〈中〉当てはまる 37.3% (R7:40.2%) ➡ 「当てはまる」を増加させる

子どもが自分の学びを実感できる授業づくり

- 「児童・生徒の自己肯定感を高める授業」を目標に、全教職員が単元の終わりに引き出したい振り返りを明確に設定し、学年や教科で協議しながら、ゴールから逆算した授業設計を行う。
- 児童・生徒の主体的な学びを促すため、ICT 機器を効果的に活用し、考えの視覚化・思考の変化の見える化や友だちとの思考の共有を図る。
- 児童・生徒一人ひとりの学びを最適化するための有効なツールとして1人1台端末を積極的に活用し、定着状況を把握した上で授業改善につなげる。

【指標とする質問】

- ・分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。

R8：〈小〉当てはまる 25.5% (R7:35.7%) ➡ 目標：「当てはまる」を増加させる

〈中〉当てはまる 23.2% (R7:29.1%) ➡ 「当てはまる」を増加させる

(2) 中学校区の小中学校間・家庭・地域との連携

地域の人の営み、生き様にふれる機会の創出

- 児童・生徒が自分の進路に自信を持ち、主体的に未来を描けるようにするためには、地域とつながり体験的な学びが重要である。市内には、地域の大人や高校生を招いた講話などを行い、身近な人の生き方に触れる機会を設けている学校もある。子どもたちが身近な大人や先輩に憧れを抱き「今の学びが未来につながっている」と前向きに将来を考えられるような場面を、意図的・計画的に創出する。さらに、企業見学などを通してキャリア教育と地域交流をさらに充実させていく。

【指標とする質問】

- ・ 将来の夢や目標をもっていますか。

R8 : 〈小〉 当てはまる 58.5% (R7:65.1%) ➡ 目標 : 「当てはまる」を増加させる
〈中〉 当てはまる 41.9% (R7:41.7%) ➡ 「当てはまる」を増加させる

- ・ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

R8 : 〈小〉 当てはまる 72.3% (R7:74.9%) ➡ 目標 : 「当てはまる」を増加させる
〈中〉 当てはまる 71.0% (R7:75.2%) ➡ 「当てはまる」を増加させる

- ・ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

R8 : 〈小〉 当てはまる 33.5% (R7:33.7%) ➡ 目標 : 「当てはまる」を増加させる
〈中〉 当てはまる 28.6% (R7:22.0%) ➡ 「当てはまる」を増加させる

望ましい生活習慣の定着に向けた学校・家庭・地域の連携の推進

○望ましい生活習慣の定着に向けて、学校運営協議会の熟議等で課題として取り上げ、家庭・地域、関係機関と連携しながら取組の改善を図る。また、全国学力・学習状況調査の結果を児童生徒と共有し、学級活動や委員会活動等を通して、子どもが問題を自分事として捉え、課題解決に向けて主体的に取り組める機会をつくる。

【指標とする質問】

- ・ 学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。

R8 : 〈小〉 30分以上 16.5% (R7:25.9%) ➡ 「30分以上」を増加させる
〈中〉 30分以上 21.5% (R7:18.1%) ➡ 「30分以上」を増加させる

- ・ 学校の授業時間外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

R8 : 〈小〉 60分以上 46.9% (R7:47.1%) ➡ 「60分以上」を増加させる
〈中〉 60分以上 52.3% (R7:47.9%) ➡ 「60分以上」を増加させる

《萩市全体で重点を置いて取り組むこと》

○ 「わからない」をそのままにしないしくみづくり

- ・ 「やまぐち学習支援プログラム」を活用した補充学習（学び直しの時間）を計画的に設定

○子どもの学びを深めるための言語活動を中心とした授業づくり

- ・ 終末に導き出したい児童生徒の姿や言葉を明確化した授業の設計

○学校運営協議会等で児童生徒とともに「学力熟議」の実施

- ・ 学力課題や身に付けさせたい資質・能力を共有

○地域や家庭と連携した「ユニット型研修」の実施

- ・ 地域の人材や資源を活用した授業